



## 世界から存在を期待される 企業を目指す

本田技研工業株式会社  
代表取締役社長

伊東 孝紳

Honda は、2010年に「良いものを早く、安く、低炭素でお客様にお届けする」という「次の10年の方向性」を定め、取り組んでまいりました。2016年度には、二輪車、汎用製品、四輪車をあわせて、全世界で3,900万人を超えるお客様と出会い、喜びのさらなる拡大を目指していきます。

### ■ 二輪事業

2016年度の世界での販売台数は、2,500万台以上を目指します。インドでは、最大セグメントである100cc市場へのモデル投入や、第3工場稼働などにより、更なる拡大を目指していきます。中国やタイでは、グローバル供給基地としてさらに成長していきます。ブラジルでは、主力モデルに加え、中・大型二輪車の販売を強化していきます。また、アフリカや中南米諸国などの新成長市場にも参入していきます。大型二輪車については、大型モデルシリーズの第一弾を、グローバル生産拠点である熊本製作所において2013年2月に生産を開始、北米を皮切りに販売していきます。また、Moto GP マシンの技術をフィードバックしたスーパースポーツバイクの開発に着手しました。

### ■ 汎用パワープロダクツ事業

コージェネレーションユニットを将来の創エネルギー

技術の中核と位置づけ、2016年度には、グローバルで800万台以上の販売をめざします。東日本大震災以降、高まったお客様のニーズにお応えするため、停電時でも自立運転が可能な家庭用ガスエンジンコージェネレーションユニットを、給湯暖房ユニットとあわせ、今年の秋に各ガス事業者様より「エコウィル」の新たなラインナップとしてお客様へお届けする予定です。

また、家庭用固体酸化物形燃料電池コージェネレーションユニットの開発にも着手しています。また、現在さいたま市が推進する「E-kizuna Project」に参加しスマートホームシステムの実証実験をしています。2013年度中には3棟目が完成予定で、これら3棟をつなぎ、エネルギー管理の実証実験を進めていく予定です。最適なエネルギー管理のあり方を提案する「Honda スマートホームシステム」は、2015年から一般に向けた販売を目指し推進していきます。

### ■ 四輪事業

世界中のニーズに、いち早く対応できるよう、競争力のあるコストで、ベストな仕様を実現する「グローバルオペレーション改革」を、「6地域同時開発」、「現地最適図面」、「生産効率向上」の取り組みで推進していきます。

このグローバルオペレーション改革は、2013年から発売する新型フィットシリーズで推進し、フィット、シティ、小型SUVを、2年以内にグローバルで展開していきます。

成長著しい新興国でも、市場ニーズにスピーディーに対応するために、各地域が初期段階より同時に同レベルで開発に参画する「6地域同時開発」を進めます。短時間で各地域に同一モデルを投入することで、グローバルでまとまった生産台数を確保することができ、これらの部品を最も競争力のある地域でまとめて作ることで、調達価格を引き下げることが可能となります。一方で、各地域の調達・生産インフラを最大限活用しながら、その地域のお客様の声に直接お応えできる「現地最適図面」を採用します。また、2013年7月稼働の寄居や2014年春稼働のメキシコなどの新工場は、小型車専用とすることで、「生産効率向上」をはかります。

日本では、生産体制の進化と軽自動車を含めた小型車のラインナップ強化により、持続的な成長を目指します。まず、生産体制の進化については、今年4月より開発・調達・品質部隊が鈴鹿製作所に集結し、スピーディーで高効率な開発・生産体制を構築しました。今後は軽自動車をメインに生産しながら、自己完結できる体制作りを進めています。埼玉製作所では、寄居、狭山各々に特徴を持たせ、得意分野を強化していきます。寄居工場は、世界をリードしていく役割を担う世界トップクラスの省エネルギー工場、新型フィットシリーズなどの小型車を集中生産する予定です。狭山工場は、10機種以上を混流生産できる高効率体制を確立していきます。販売領域では、11月に発売のN-ONEを皮切りに、今後2015年までに、新たに軽自動車を6モデル投入し、小型車については、新型フィットシリーズを投入します。

北米においては、2014年春に稼働するメキシコ新工場では、新型フィットおよび派生モデルを生産します。中国では、2013年からの3年間で、Hondaブランドは10機種以上のフルモデルチェンジや新機種投入を予定しています。また、アジアでは、アジア戦略車であるBRIOのプラットフォームを活用した、セダンや多目的タイプを追加していきます。なお、インドでは、新型ディーゼルエンジンを2013年度

以降発売するモデルに順次搭載していきます。

これらの取り組みによって、2016年度に、成熟市場では、昨年度の約206万台から300万台以上へ、新興国市場では、昨年度から倍増の300万台以上に拡大し、全世界で600万台以上の販売を目指します。

環境対応車ですが、ハイブリッド車は、それぞれに個性がある3つのシステムを機種に応じて搭載していきます。中型車領域では、プラグインハイブリッドを2013年初めに米国で発売するのについて、新たに2モーターを搭載したハイブリッドタイプも追加します。その後、日本やその他の地域にも展開していきます。さらに、高次元のスポーツハンドリングと燃費性能を両立した高効率・高出力の3モーターハイブリッドシステム「Sport Hybrid SH-AWD®」を、「NSX」や「Acura RLX ハイブリッドタイプ」、日本で2014年発売の「Legend 後継モデル」に搭載していきます。

バッテリーEVは、世界最高の電費性能を達成したフィットEVのリース販売を今夏から日米で開始し、バッテリーEVのひとつの方向性である超小型車については、2013年には日本で実証実験を開始する予定です。さらに、究極の環境対応車である燃料電池電気自動車の新型モデルを、2015年から日米欧で順次販売します。

夢のある尖った商品も積極的に投入していきます。日本においては、軽自動車の1つとして、アグレッシブな走りを実現するオープンスポーツカーを、2014年に発売します。欧州においては、新たに「Civic Type-R」を開発し、「ニュルブルクリンクFF最速」を目指し、2015年投入を目標に開発を進めています。Acuraのフラッグシップセダンである新型RLXは、ハイブリッドタイプに加え、高いハンドリング性能を実現する世界初の新技術「プレジジョン・オール・ホイール・ステア」を搭載したモデルも投入し、今後3年間でAcuraの全モデルを一新する予定です。Acuraは今後も北米や中国を中心にブランド力を強化しながら、世界に展開していきます。

今後もHondaは世の中から存在を期待される企業を目指してまいります。